清　家　　理

（スポーツ健康科学部）

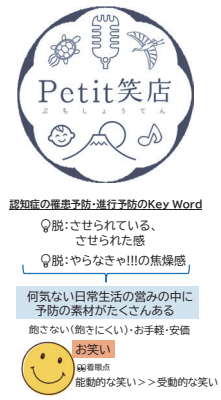
学際的アプローチ×ライフデザイン研究

介護負担スケールを活用し、測定の標準化を推進するとともに、早期段階から支援をキャッチアップする体制を整え、人生100年時代に向けたエビデンス創出とウェルビーイングの実現を目指す。これらのデータは全てデータベース化し、乳幼児期の生活、保育環境や人との関わりなど、非認知能力向上のために何をすべきか、教育のありかたを問い直すエビデンス創出を最終着地点として考えている。

大きく6つのプロジェクトを実施しているが、メインテーマは、軽度認知障害（MCI）または認知症の本人およびその家族を対象に、非薬物介入の効果検証と測定手法の開発と言える。

社会的課題の探索を基盤に解決策（介入）の、試作・妥当性検証を経て、介入の効果をランダム化比較試験（RCT）で科学的に検証、その後、社会発信や人材育成を通じて社会実装を目指す、アクションリサーチ型で研究を進めている。

具体的な介入法として、AIチャットボットを用いた認知症進行予防プログラムや、介護ストレス軽減プログラムの開発にとりくんできた。そして近年は、吉本興業と連携し、「お笑い」を通じたMCI・認知症進行予防プログラムの開発に着手している。MCI・認知症の方および家族のメンタルヘルス、QOL向上について、RCTで効果検証中であり、エビデンス創出に取り組んでいる。



所　属

スポーツ健康科学部

研究テーマ

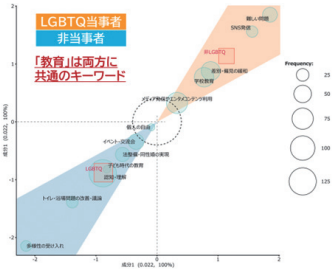
- ■ワーキングケアラーに対するストレスマネジメント
- ■認知症予防のための非薬物介入手法開発
- ■認知症進行予防のための非薬物介入手法開発
- ■多様性に寛容な社会の実現に向けた共創システム開発（テーマ：認知症・発達障害・LGBTQ+）

キーワード

多様性寛容・DE＆I・認知症・マイノリティ・介護者
ワーキングケアラー・非薬物介入・心理社会的支援

最近HOTな研究テーマ
－多様性寛容のための社会技術開発－

昨今、DE＆I、ダイバーシティ、インクルージョン、SDGsが至るところで語られているが、言葉を知っていても、内容はよく知らない、実行はできていないという方が多い状況にある。私たちのプロジェクトでは、認知症だけではなく、あらゆる生きづらさを抱えている人とそうではない人の「境界を無くす」アクションリサーチを開始している。今年度より認知症領域では、幼児・保護者と高齢者・家族ペアの「お笑い」コラボワークによる非認知能力・寛容性向上の臨床研究を開始している。LGBTQ+領域では、日本での理解の現状等を正しく把握するために30万人に対してスクリーニングを実施し、実態調査を実施した。LGBTQ+・非LGBTQ+共に、理解増進のためには啓発よりも「教育が重要」と考えていることが調査から判明した。どのような教育がいいのか、その実験的取り組みを全学教養ゼミで実施している。



茅ケ崎プロジェクト
立命館大学・国立長寿医療研究センター・湘南幼児学園・茅ケ崎市・吉本興業　共同プロジェクト
International Public Health Conference. March 24-26, 2025 Singapore発表予定